

目的 明治政府の欧化政策の顕在的方法の一つに各国要人接待の社交場として鹿鳴館で舞踏会が開催された。時には仮装舞踏会も挙行され、集まった内外の紳士淑女はいつでも意匠をこらした。今回はそれらの中から仮装舞踏会に着用された鍋島直火公の衣裳について調査・研究をおこなった。

方法 文献・実物資料から調査・研究、その特質について考察を試みた。

結果 これまで鹿鳴館時代における仮装舞踏会の衣裳については、文献に記載されたものの範疇で理解してきたが、実物資料をみる事によって当時の様相を実感として受けとめる事ができた。また、衣裳の形態・素材・縫製、並びに付属品等についても理解を得ることができた。